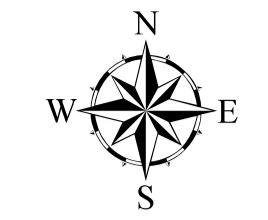


# 想定東南海・南海地震による熊野灘至潮岬津波防災情報図広域版（引潮図）

計算条件：最低水面・150mメッシュ

隆起量：平均53cm（-67cm～253cm）

この図は、想定東南海・南海地震により発生する津波を150mメッシュで計算した概要版であり、港湾や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、津波防災情報図（50mメッシュ）のある海域はそれを参考にしてください。



1:150,000

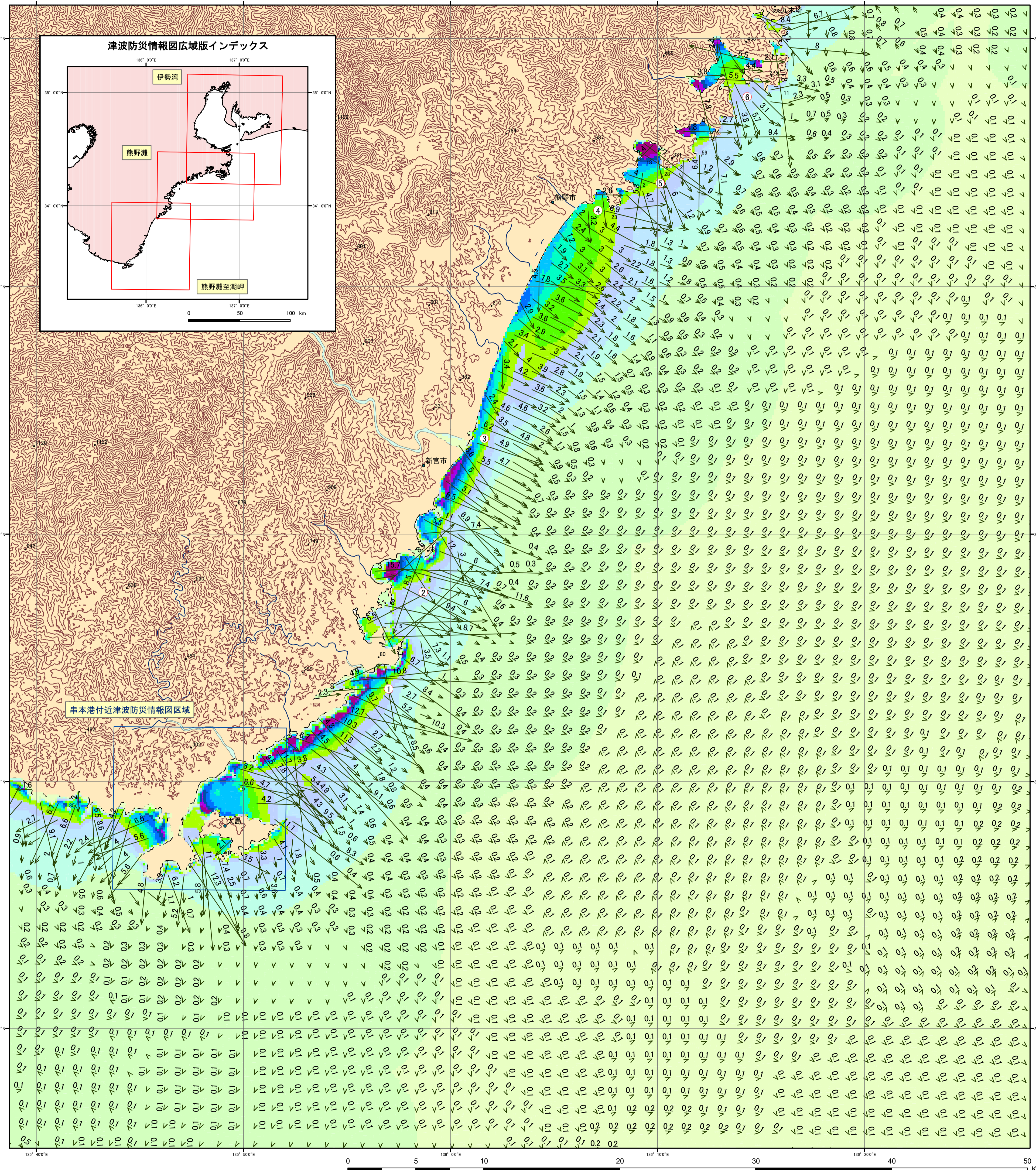
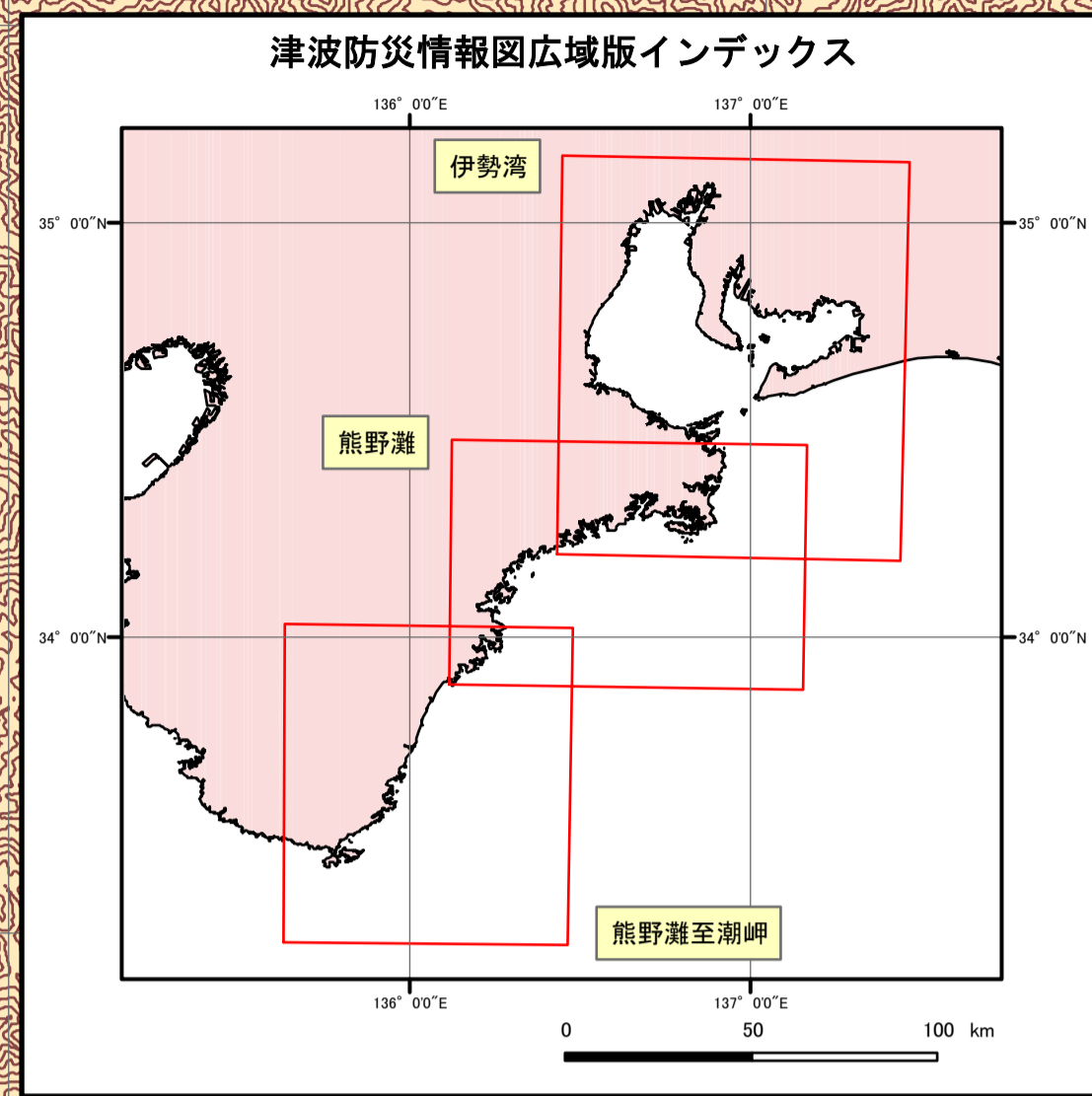
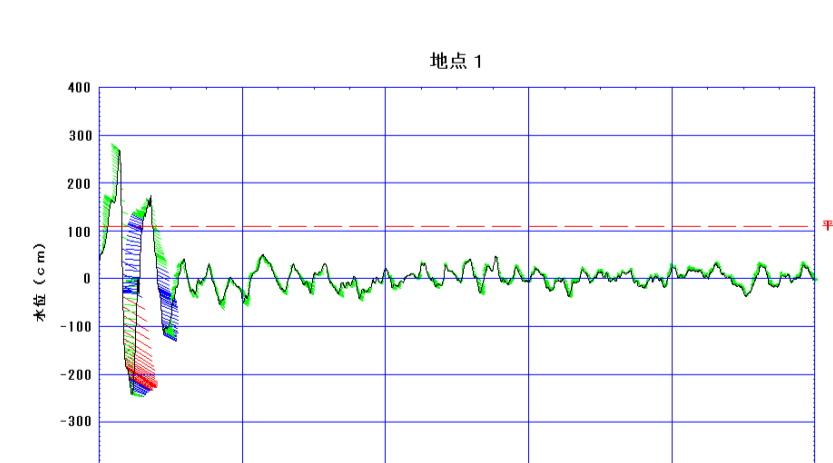
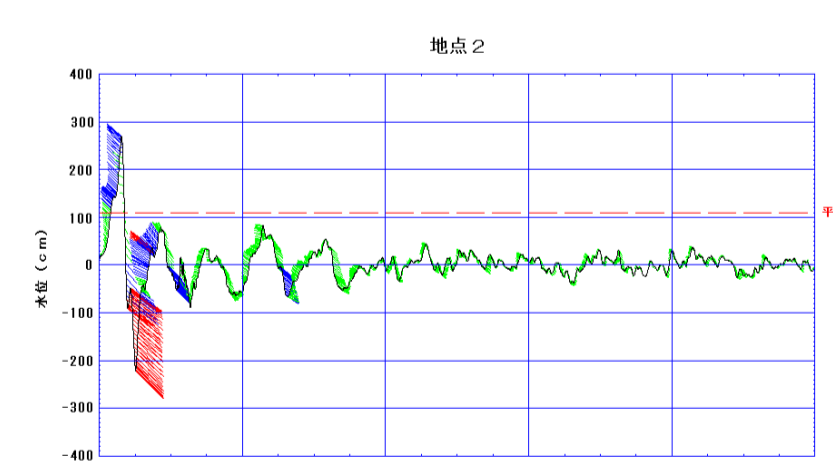
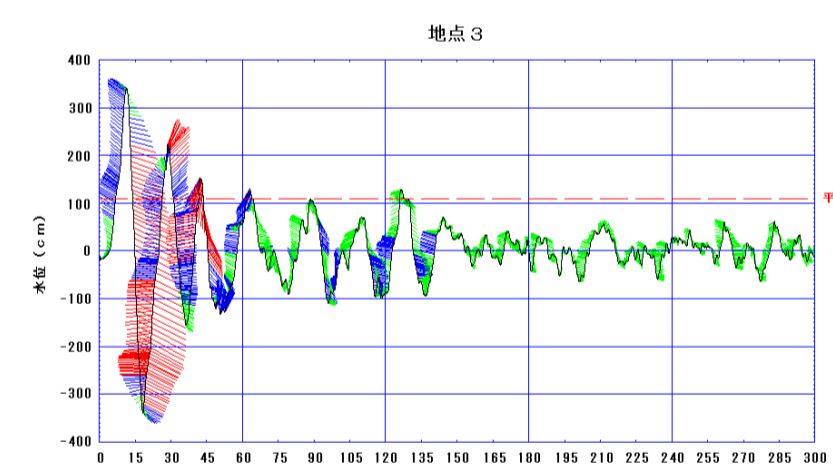
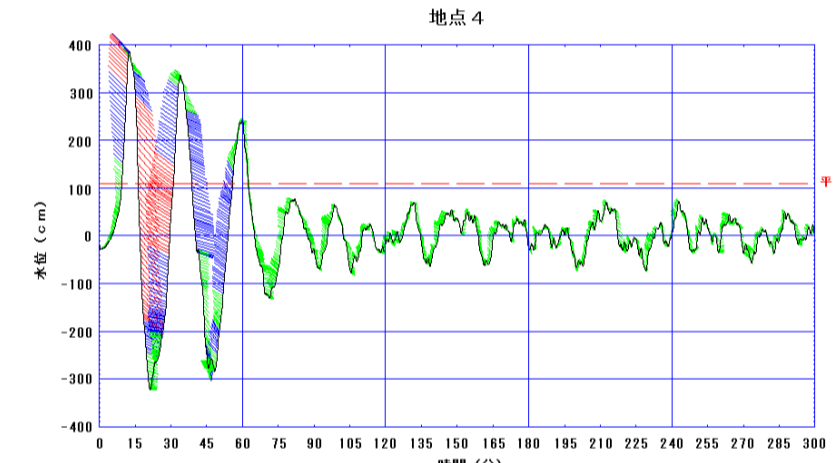
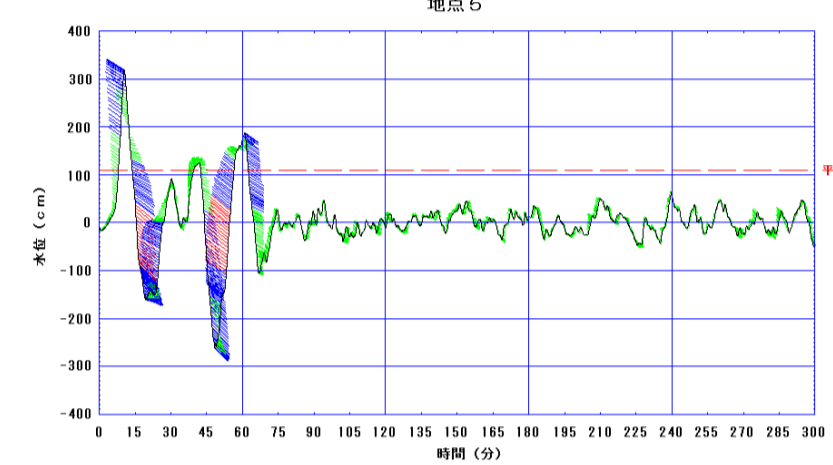
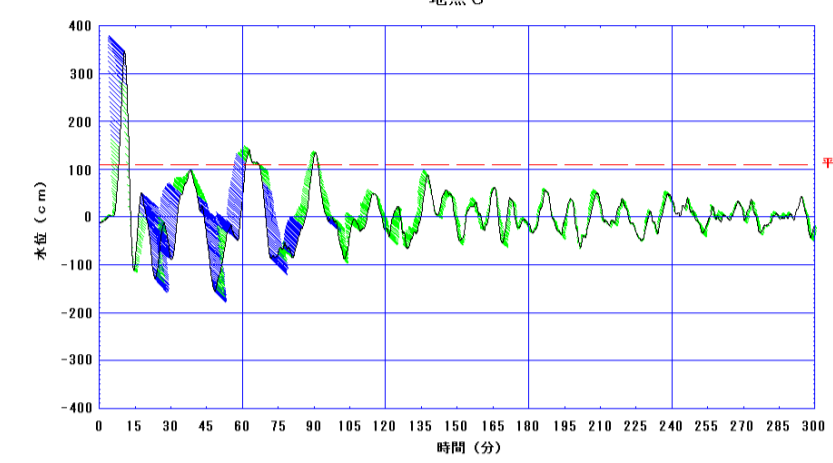
座標系：メルカトル図法 (Lat 35)  
測地系：世界測地系 (WGS84)

## 経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

この図は、最低水面を基準面（0cm）として、5時間の津波の水位変動と流速ベクトル（流速・流向）を表示しています。  
 ・0分（発災時）の水位値は、その地点における地盤変動（隆起又は沈下）を表示しています。  
 ・時間による潮汐の変化は考慮されており、津波は計算条件の基準面に取戻します。  
 ・経時変化図の図説事項

平均水面・・・潮汐が無いと仮定したときの海面（その海域の平均水面）を赤破線で示す。  
 水位変動・・・刻々と時系列で変わる津波の水位変動を黒線で示す。  
 流速ベクトル・・・水位変動時における水平方向の海水の動きを、流速（長さ・色）と流向（360°方位）で示す。

流速  
 赤：2.1ノット以上  
 青：1.1ノット～2.0ノット  
 黒：1.0ノット以下

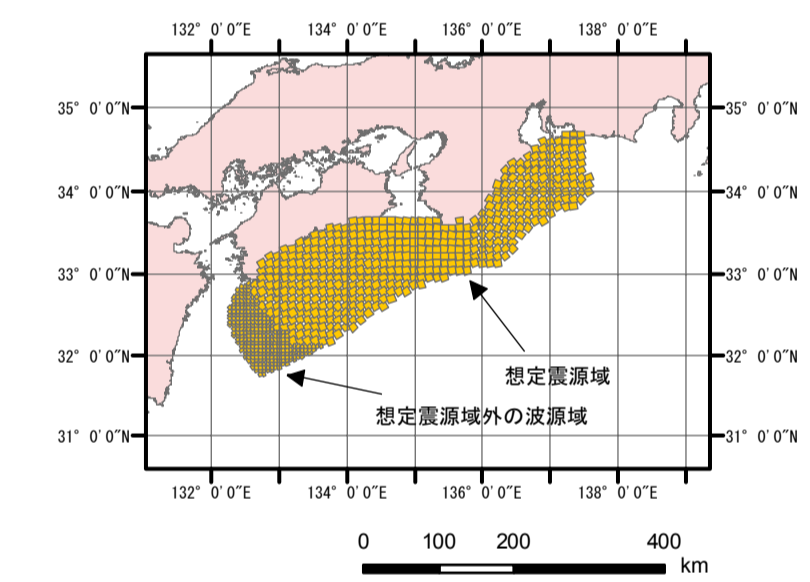


凡例  
 ○ 経時変化図出力点

最大水位低下  
 600～最大1030cm  
 550～600cm  
 500～550cm  
 450～500cm  
 400～450cm  
 350～400cm  
 300～350cm  
 250～300cm  
 200～250cm  
 150～200cm  
 100～150cm  
 50～100cm  
 50cm未満

引潮時最大流 [knot]  
 3knot  
 2knot  
 1knot

## 想定震源域と波源域の位置

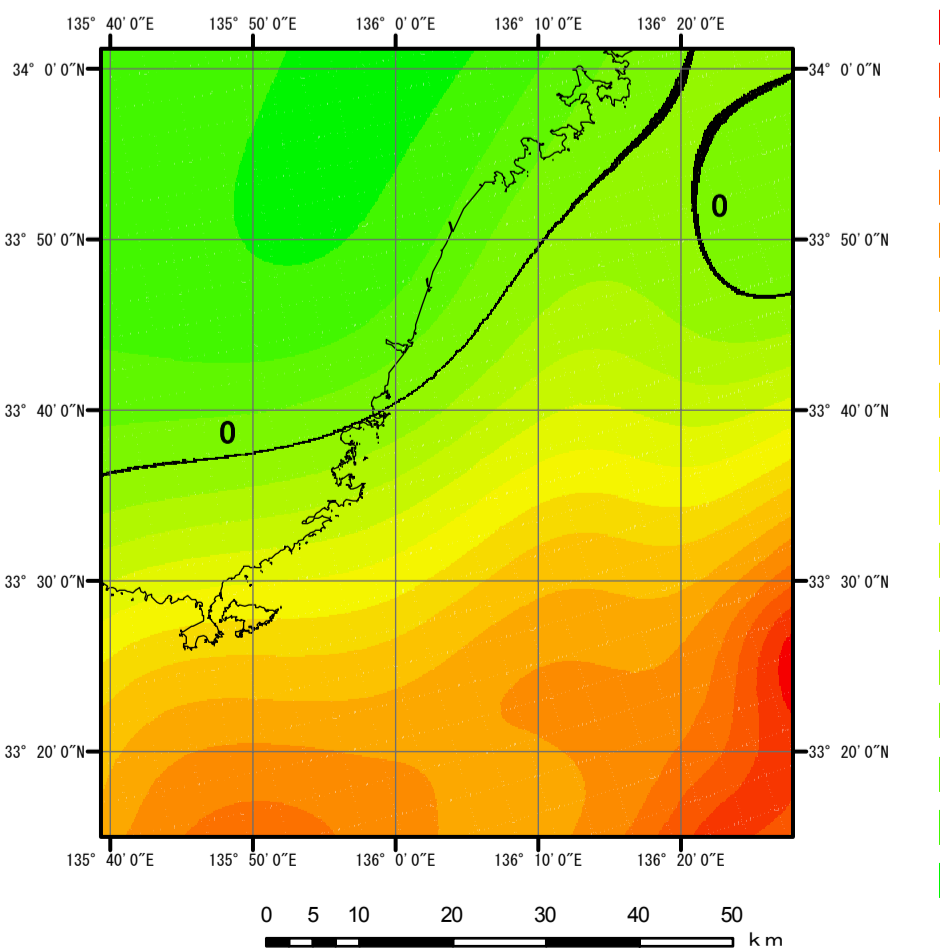


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断面面積 S (km <sup>2</sup> )	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 <sup>21</sup>	2.15 X 10 <sup>21</sup>
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

## 地盤変動図

隆起量：平均53cm（-67cm～253cm）



凡例  
 地盤変動量  
 240～最大253cm  
 220～240cm  
 200～220cm  
 180～200cm  
 160～180cm  
 140～160cm  
 120～140cm  
 100～120cm  
 80～100cm  
 60～80cm  
 40～60cm  
 20～40cm  
 0～20cm  
 -20～0cm  
 -40～-20cm  
 -60～-40cm  
 最大-67～-60cm

・この地盤変動図は想定東南海・南海地震で発生する地盤の隆起量を表示している。

・この図は、発災時から5時間のシミュレーションを行い作成しており、最大流速の矢符は150mメッシュ9×9（1,350m×1,350m）の81個から最大の津波（引波）の速さと方向を表示しています。  
 ・表示されている流速矢符は津波による流速と流向のみで、海潮流の要素は考慮されていません。  
 ・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EG6500、J-BIRD、沿岸の海の基本図形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。  
 ・陸部の情報は海図から採用しています。

作成機関：第四管区海上保安本部  
 作成年月：平成20年1月